

| 自己評価 | | | | | 学校関係者評価 | | |
|-------------|--|--|---|-------------|---------|--|---|
| 学校運営計画 (4月) | | | | | 評価 (総合) | | |
| 学校運営方針 | 【基本方針】 本校教育の根幹を成す「世のため、人のため」の精神のもと、社会の変化や生徒の実態に迅速に対応できる機動的な体制を確立し、開かれた学校づくりを推進する。 【長期目標】 1 社会的な視座に立つ教育活動を展開することにより、世界の現実を直視し、自己の使命を果たそうとする高い志と国際的素養を持った生徒を育成する。 2 後世に優れた精神文化を継承していく使命と責任を自覚し、知性と感性が調和した人間力豊かで実践的行動力を身に付けた生徒を育成する。 3 内面的自覚を促し、節度ある生活の中で礼儀と倫理観を育てるとともに、主体的に行動し自らの責任を果たす生徒の育成を推進する。 4 学校行事や生徒会活動等における生徒の自治的活動をととして、創造性及び協働性並びにリーダーシップ・フォロワーシップ及び自浄力を育成する。 5 ICT教育を有効に活用した授業を展開することにより、思考力、判断力、表現力を更に伸長させる。 6 前期の区切りとしての「大運動会」と後期の区切り及び学年の総仕上げとしての「大文化祭」の二大学校行事を中心とした学校暦の充実を図る。 7 生徒の現状に即した諸支援を充実させ、「人間としての在り方・生き方」を考えさせる教育を推進する。 8 地域の小学校、進学塾と連携し、小学校及び小学生の保護者向けの広報活動を充実させるとともに、地域に対して本校の教育活動を理解していただく。 | | | | A | A | |
| | 昨年度の成果と課題 | 年度重点目標 | 具体的目標 | | | | |
| | 学校が安全・安心な場として、そして主体的な学びの場として十分機能し、人格形成や進路実現に十分な成果を得ることができた。これは継承されてきた本校独自の教育実践をとおして、個性の伸長や人間的な成長が図られた成果である。 今年度も継続して、授業等で主体的・対話的で深い学びを充実発展させるとともに、次年度から始まる新教育課程の実現に向けた具体的方策を検討する。 また、学校行事や部活動等をととして人権感覚を身につけたリーダーの育成を図りつつ、遅しさとともに人の心や物を大切に作る繊細な心を育む。 さらに、広報活動を充実させ、本校教育活動を小学生とその保護者を中心とした地域の方々を理解していただく。 | 1 授業等の改善・充実 2 豊かな人間性と実践力の育成 3 教師としての資質・能力の向上 | (1) 校種間の接続(中高および高大の接続)を意識した授業を展開し、知識・技能の習得とその活用を内包する授業を展開する。 (2) 教育活動全体をととして、自他の個性を理解し、主体的に進路を選択できる能力・態度を育む教育を実践する。 (3) 二学期制の特色を生かした修猷館暦のもと、生徒の多様な資質・能力を伸ばす柔軟で効果的な教育の方法、システムの研究を推進する。 (4) 成年年齢引き下げに伴う教育を充実させる。 (1) 学校行事の意義について学校全体で共有することで、「世のため、人のため」という言葉に凝縮される本校の全人教育を充実させる。 (2) 命の大切さを認識させ、自尊感情・人権感覚等を主体的に獲得させるとともに、各種調査等から生徒の実態を把握し、教育活動を充実発展させる。 (3) 授業や特別活動等における交流、言語活動の充実をととして人間力を高め、グローバルリーダーに相応しい態度と実践力を育成する。 (1) 教師一人ひとりの言動が「隠れたカリキュラム」として修猷文化を醸成するという自覚を持ち、自ら進んで研究と修養に努め、教養を高める。 (2) 「語りの文化」を活用し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業や評価等の研究・開発・蓄積に努め、共有化を図る。 (3) 健康の維持・増進を図り、幅広く知識と経験の習得に努め、専門性の向上を図る。 | | | | |
| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 (3月) | 次年度の主な課題 | 項目ごとの評価 | 学校関係者評価委員会からの意見 | |
| 教務部 | 教務課 | 1 修猷の不易と二学期制を活かし、生徒ひとりひとりの資質・能力を伸ばす。 | (1) 各教育活動における「主体的・対話的で深い学び」の実践に向けた体制を構築する。 (2) 評価の観点を整理し、学習活動のあらたな評価法を検討する体制をつくる。 | A B | A | 新教育課程・新学校時制の実践を、本校の重点目標に沿う方向で行う。さらにプロジェクトチームを組織し、それらに関する検証を行い、よりよいものを構築していく。 ICT機器の整備、学習評価の改訂を通じて「主体的・対話的・深い学び」、 「修猷総合カリキュラム」を達成すべく、様々な「仕掛け」を密に行う。 | A |
| | | 2 通常業務の精度向上と効率化、教育活動への還元を図る。 | (1) 統合型校務支援システムを活用し、出席管理、指導要録作成などの業務精度向上を図る。 (2) 生徒状況報告書・生活時間調査の活用と学年・他分掌との連携により生徒把握と早期対応を行う。 | A B | | | |
| | | 3 グランドデザイン、修猷総合カリキュラムの更新を図る。 | (1) グランドデザイン・総合カリキュラムを活用し、教育方針の共通理解を深める。 (2) 次期学習指導要領を見据えた新カリキュラムに対応した環境整備をおこなう。 | A B | | | |
| | 庶務課 | 1 校内の教育環境の整備を充実させ、教育活動の充実と発展に寄与する。 | (1) 校内備品の管理と整備を適切に行う。 (2) 生徒会庶務委員会活動をより活性化し、生徒が教室整備等に主体的に関わるようにする。 | B A | A | 校内備品の使用方法・配置・整備を生徒主体で徹底し、学習環境の向上のため有意義に活用すると同時に、物を大切に使うことの意義を生徒に再認識させる。 コロナ対策等を考慮した上で、学校教育の充実のための行事の内容・実施方法について工夫、見直し及び精選を行う。 生徒、保護者、教員のためになるPTA・同窓会活動のあり方を模索し、提案する。 | A |
| | | 2 本校の儀式的行事の意義と伝統を踏まえた計画の作成や運営を行う。 | (1) 関係各署と連携を密にとりながら、計画・準備・実施・片付けを行う。 (2) 新型コロナウイルス感染症の感染状況に適切かつ臨機応変に対応する。 | A A | | | |
| | | 3 P T Aや同窓会と連携し、教育活動の実態に応じた組織体制や活動を実現する。 | (1) 両組織との連携を密にとりながら、関連行事の円滑な運営に協力する。 (2) P T Aの組織体制や活動について、時代や実態に即した形を模索し、改変する。 | B B | | | |
| 生徒部 | 生徒支援課 | 1 自律して行動することの重要性を理解させ、主体的に行動し自己責任を果たす生徒を育成する。 | (1) 全教職員が共通理解・認識のもと生徒の内面的自覚を促し、基本的生活習慣を確立させる。 (2) 規範意識育成(交通安全、情報モラル、防犯等)について年間で継続的な指導を行う。 (3) 防災教育・安全教育等により、安全意識と危機管理能力を向上させる。 | B B A | A | 後期に自転車マナー・乗車マナー等についての苦情が増えた。その場しのぎの指導に終わらないよう、規範意識育成への継続的な取り組みを確立する。あわせて、三役を中心とした校内外でのマナーアップ・モラル向上への取り組みを支援する。生徒の主体性を引き出すための教員としての理解や取り組みを見直す。生徒が自ら考え、企画運営できるための助言ならびに指導を積極的に行う。 | A |
| | | 2 生徒による自治的・協働的な活動をととして、豊かな人間性とリーダーシップを育成する。 | (1) 学校行事の意義を職員間で共有し、学校全体で生徒の主体的な活動を支援する。 (2) 豊かな人間性と想像力、実践力を育み、誰もがリーダーシップを発揮できる環境づくりを行う。 (3) 命の大切さを認識させるとともに、自尊感情・人権感覚等を主体的に獲得させる。 | B A A | | | |
| | | 3 生徒の現状に即した諸支援を充実させることにより、社会の変化や生徒の実態に対応できる体制の確立を図る。 | (1) 長期欠席等に関しては、情報の共有、早期対応に努め、外部専門機関を積極的に活用する。 (2) いじめの未然防止・早期発見に努め、個別の事案については組織的・継続的に取り組む。 (3) 校外の研修会に積極的に参加し、情報を共有することで、指導効果を向上させる。 | A A B | | | |
| | | 1 校務課 | 2 庶務課 | 3 生徒支援課 | | | |
| | | 1 教務課 | 2 庶務課 | 3 生徒支援課 | | | |
| | | 1 教務課 | 2 庶務課 | 3 生徒支援課 | | | |

